

長野県のキャリア教育

4・5月号の秋田県に続き、7・8月号では、長野県のキャリア教育に関する方針や政策を聞くとともに、豊富な講演会や体験活動を通じて、生徒の進路選択を支援している長野県伊那北高校を取材した。

長野県キャリア教育支援センターを中心に 県を挙げてキャリア教育を推進

長野県教育委員会

長野県では、2003年度から「ずく出せ修行」就業体験事業、2008年度から長野県の産学官が連携した人材育成のための「未来塾ながの」といったキャリア教育を推進してきた。さらに、2011年11月に「長野県キャリア教育ガイドライン」を策定し、2012年には産学官の協力のもと「長野県キャリア教育支援センター」を設置して、県を挙げてキャリア教育を推進している。そこで同県の施策について、教学指導課高校教育指導係の三浦章係長、鈴木芳昭主任指導主事と竹内宏枝指導主事に話を伺った。

「ずく出せ修行」就業体験事業と 産学官が協力した人材育成「未来塾ながの」

まず、「ずく出せ修行」就業体験事業、「未来塾ながの」について紹介しよう。

長野県では、現在、「ずく出せ修行」就業体験事業として「ずく出せ修行コース」「ジョブ・シャドウイングコース」「ジュニア・インターンシップコース」の3つの就業体験プログラムを実施している。「ずく出せ」とは長野県の方言で「面倒くさいことも一歩踏み出してやってみよう、気骨を持とう」といった意味である。

「ずく出せ修行コース」は、学校、教育委員会、商工労働部等が企業・施設・農家等の受け入れ先を開拓し、公立高校の生徒（希望者）が1日から数日の就業体験を行うものである。「ジョブ・シャドウイングコース」は主に進学校の生徒を対象とし、医師、弁護士、会計士など高度専門職の人と1日行動をともにして、その職業について学ぶものである。「ジュニア・インターンシップ



三浦章 係長



鈴木芳昭 主任指導主事



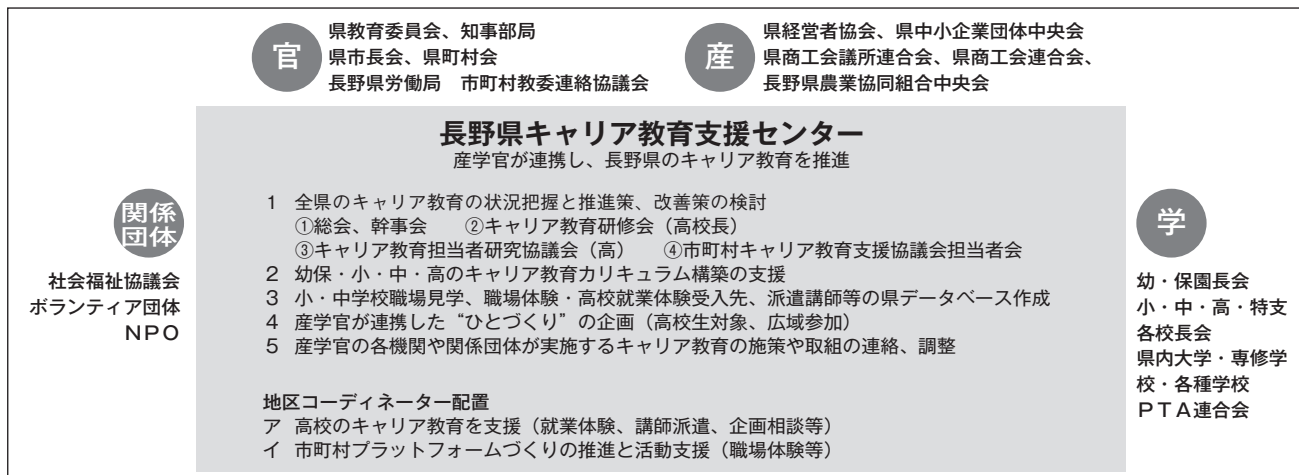
竹内宏枝 指導主事

コース」はハローワークが紹介する企業等で1日～数日程度行う就業体験である。前2つは県が、ジュニア・インターンシップはハローワークが保険料を負担する。「各校は独自に就業体験先を開拓してもよいですし、県のプログラムを活用することもできます」（鈴木主任指導主事）

一方、「未来塾ながの」は、2008年度から長野県の産学官が連携して推進している人材育成プログラムだ。これは、高校1、2年生が対象で、将来の郷土の担い手を育成することを目的としたものである。土曜日を中心に年数回にわたって行っている。2009年度を例にとると、「企業の担当者や信州大学の教授らから環境問題の講義を受けた後、森林での間伐材伐採を体験する」「セイコーエプソンの相談役による講演の後、時計作りに挑戦する」「カーボンナノチューブの研究者でノーベル賞候補者でもある信州大学遠藤守信教授による最先端科学の講義を聴講する」「プレゼンテーションソフトの活用法を学んだ後『未来塾ながの』で得た成果を発表する」など充実した内容である。

三浦係長は「最初、恥ずかしそうに自己紹介していた生徒が、最後のプレゼンテーションでは堂々とした素晴

<図表1>長野県キャリア教育支援センターの設置



〔長野県キャリア教育ガイドライン〕、8ページより

らしい発表をするようになり、その成長に感動しました。しかし、現在、高校生は土曜日は部活動や補習等で忙しく、年度を重ねるに従って連続で参加することが難しくなりました。複数回にわたる連続した取り組みだからこそ得られる効果が薄れてしまっています。そこで現在、内容の見直しを考えているところです」（三浦係長）

キャリア教育支援センターを中心に 産学官が連携した体制を構築

こうしたキャリア教育に対する取り組みを踏まえて、2011年11月に「長野県キャリア教育ガイドライン」を策定した。「キャリア教育ガイドライン」では、「社会的・職業的に自立した人間の育成」をめざし、次の3点を重要な柱としている。

1. 家庭・地域の教育力を生かし、地域社会全体で子どもを育てる。
2. 発達段階に即し、幼保・小・中・高が一貫した理念で子どもを育てる。
3. 各学校では、既存の取組や教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化する。

そして、地域全体で学校が行うキャリア教育を支援するために設置されたのが「長野県キャリア教育支援センター」である<図表1>。

「本県では義務教育の現場においてキャリア教育が先行しており、小学校や中学校のキャリア教育を支援するプラットフォームを構築している市町村が多くあります。そこで高等学校でもこれに見合うセンターを作ろうということ、また市町村によってもばらつきがありますので、

市町村のプラットフォーム構築を支援することなどを目的に、『長野県キャリア教育支援センター』を設置することにしたのです」（三浦係長）

長野県では、このキャリア教育支援センターが、3つの柱について大きな役割を果たす。以下、3つの柱に沿って、長野県のキャリア教育に関する施策を紹介しよう。

「1. 全県のキャリア教育の状況把握と推進策、改善策の検討」について、三浦係長は「今年5月に行われた総会では、多くの団体が出席しました。当初“幼保・小・中・高”の連携を中心に考えていましたが、出席者から、特別支援学校、高等専門学校、大学をも含めて幅広くキャリア教育に取り組むべきとの意見をいただき、視野が広がった思いがしました。そういった観点で取り組むことにより、関係諸機関の連携を担うキャリア教育支援センターの役割もさらに大きくなっていくと感じました」と手応えを語る。

具体的な活動としては、2012年度は公立高校の学校長を対象としたキャリア教育研修会を実施し、2013年度は副校長・教頭を対象とした研修会を5月に実施した。

教育活動をキャリア教育の観点から見直し 学校の全体計画を作成 各高校の実情にあったキャリア教育を推進

「2. 幼保・小・中・高のキャリア教育カリキュラム構築支援」については、公立高校に対して、学校目標と基礎的・汎用的能力を踏まえた上で「つけたい力」を明確にし、既存の取り組みを見直して体系化する全体計画の提出を依頼した。竹内指導主事は、その狙いを「キャ

リア教育として、何か新しいことをするというのではなく、各学校で現在ある進路行事などの教育活動を、キャリア教育の視点で見直し、体系化しようということです」と語る。

「修学旅行、大学訪問といった行事をキャリア教育の視点に立ち、連動させて行うことが大切です。内容は各校に任せていますが、全体計画を検討した結果、この行事をなぜこの時期に行い、何を学ぶのかを、学校が説明できるようになりました」（鈴木主任指導主事）

キャリア教育のうち就業体験は、普通科高校での取り組みの遅れが全国的に共通した課題となっているが、三浦係長は「必ずしも販売実習やものづくりといった業務を行わなくてもよいと考えています」と述べ、「進め方によっては、大学の研究室見学も進学校では就業体験活動と同等の体験になると考えています」と竹内指導主事も話す。

さらに、「大学のオープンキャンパスの機会を利用して、大学生や大学教員に、自身の職業観や、自分の人生の中で現在がどのような位置づけにあるかを聞いたりすれば、学部・学科の選択だけでなく、生徒の職業観を育成したり、社会で働くことを考えさせるよい機会になると思います。就職体験活動とは、企業に行って実際の仕事をするだけではなく、例えば、企業の若手社員との交流を通して高校時代の過ごし方やなぜその会社に就職したか、10年後の目標を聞いたりすることでも、就業体験活動と同等の意義あるものになると考えています」（鈴木主任指導主事）

「産業社会と人間」の実施や「総合的な学習の時間」の工夫に取り組む高校を支援

さらに、2013年度は、「先導的カリキュラム改革推進事業」として、2つのテーマで支援する予定だ。

1つは、総合学科で必修科目となっている「産業社会と人間」を普通科で実施するというものである。「産業社会と人間」と同等の内容を実施し、学校独自のテキストを作成して、他校への普及を促すのが目的である。

もう1つは、進学をめざす生徒に対して「総合的な学習の時間」の工夫を考えるというテーマである。具体的には、大学進学をめざす生徒が進学の目的を明確にするとともに、思考力・判断力・表現力等や課題対応能力等の基礎的・汎用的能力を培うことを意図した『総合的な

＜図表2＞ 77市町村におけるプラットフォーム構築状況

	プラットフォームあり	2013年度構築予定	構築予定	未定	合計
東信	4	3	2	6	15
南信	13	10	1	4	28
中信	5	6	7	1	19
北信	3	3	4	5	15
合計	25	22	14	16	77

コーディネーター調査より、2013年3月

学習の時間』の工夫を行う高校に対して支援を行うものである。それぞれ数校を指定し、そこに予算を重点的に配分することにした。

「5月中に高校から申請をしてもらい、6月には高校を指定する予定です。前者に取り組む高校には普通科における『産業社会と人間』の教材を作成してもらい、2月に行われるキャリア教育支援センターの総会で紹介する予定です。後者に取り組む高校も、総会でプレゼンテーションをし、県内でその成果を共有する予定です」（竹内指導主事）

職場見学、職場体験、就業体験等に利用できるデータベースの作成をめざす

さらに2013年度から5年間にわたって「3. 小・中学校職場見学、職場体験・高校就業体験受入先、派遣講師等の県データベース作成」に重点的に取り組む。

このためにキャリア教育支援センターでは、経済団体・大学・専修学校・事務局からなる「職場体験・就業体験活動推進部会」、社会福祉協議会・地域福祉課・事務局からなる「福祉体験部会」、JA・農業政策課・事務局からなる「農業体験・林業体験活動部会」の3つのワーキンググループを設置する。

また、小中学校の職場見学や職場体験受け入れ企業のデータベースを整えている市町村が多く＜図表2＞、専門高校でもインターンシップ受け入れ企業の開拓が進んでいる。そこで「協力を得る企業に過重な負担がかからないようにしなければならない」ことから、普通科高校もそれらの情報を活用できないかと考えているところだ。

このように、2011年に策定された「長野県キャリア教育ガイドライン」は、さまざまな取り組みを展開するベースとなる役割を果たしているようだ。長野県では、「走りながら考え」、改善を重ねながらキャリア教育を推進していく予定である。

「ようこそ教授」「こんにちは先輩」「総合ゼミ」など 豊富な講演会や体験活動を通じて 生徒の進路選択を支援

長野県伊那北高等学校

東に赤石山脈、西に木曾山脈を臨む伊那谷に位置する長野県伊那市。長野県伊那北高等学校は、自然豊かな伊那市に立地する進学校である。同校では以前から、進路学習の一環としてキャリア教育の理念に通じる数々の取り組みを行い、生徒の進路選択を支援してきた。その取り組みについて、進路指導主任の中澤幸彦先生、元進路指導主任で現在教務主任の埋橋浩先生、前進路指導主任で現在1学年主任の有賀智秀先生に話を伺った。

「伊那北スタイル」の進路指導を確立し 早くから体験活動や卒業生による体験談を重視

伊那北高校が現在につながる進路指導の検討を始めたのは、2005年頃のことである。長野県の県立高校では伝統的に学年担任団が進路指導を主導しているが、教員の異動に左右されずに指導することや、学年間のばらつきを是正するために進路係を中心とした「伊那北スタイル」の進路指導を確立し、学校全体で情報を共有して指導にあたることにしたのである。2007年頃には学年を追って、模擬試験の実施や、進路に関する行事や学校行事をまとめた「進路ストーリー」を作成した。

2007年に進路指導の方針を検討した際、『「進路指導」はいわゆる『人間として生きる力』を育てるということになっていく』ということや、「(進路指導は)別段特化したものでなく、学習指導・生徒指導などと一体化したものであるということである。よって授業・クラブ活動・行事・総合学習・生徒会活動など、学校で行われていることすべてを通して行われているという認識を持つ必要性を感じる。また、より自分自身を探究するために、自らの進路を見つけるために、実社会に出て行く体験学習やボランティアに積極的に参加したり、先人の講話・講演・体験を聴き自らの生き方を深めさせることも必要なことである」ということが話し合われた。

現在の進路指導の方針もこのような考えに基づいている。



中澤幸彦 先生

埋橋浩 先生

有賀智秀 先生

1年次は先輩の姿に触れる機会を多く設け 知的好奇心を喚起し進路の多様性を提示

同校のキャリア教育について、「進路ストーリー」<表1>に従って体験活動や講演会を中心に見ていこう。

まず1年次は、先輩の姿を見せて進路の選択肢を増やすことを目的とした取り組みが多数行われている。

<表1> 2013年度 伊那北高校 1学年進路ストーリー

学期	目標〔行事〕	月	ホームルーム・考査等
前期	学習習慣の再構築 〔応援練習〕 〔クラブ結成〕 〔春期クラスマッチ〕	4	学習ガイダンス 進路指導主事の講話 第1回進路希望調査
	部活と学習の両立 〔南信大会〕	5	面接週間 第1回考査
	ペン祭への積極参加 〔ペン祭〕	6	教育実習生と語る会
	学習方法の点検改善	7	第2回考査 大学ガイダンス(東京)〈希望者〉 三者懇談
	規則正しい生活 ここまでの総復習 不得意科目の克服	夏休	読書 職業研究
	生活リズムの再点検 〔秋期クラスマッチ〕	8	課題テスト(国数英) 進路ガイダンス「ようこそ教授」
	自己理解と進路研究 〔合唱コンクール〕	9	第2回進路希望調査 2年次選択科目希望調査 面接週間
後期	文理選択の決定 〔競歩大会〕	10	第3回考査 小論文講演会
	授業優先の再確認 〔南信新人大会〕	11	進路ガイダンス「こんにちは先輩」 東京大学見学会(東京)〈希望者〉
	体調の維持管理	12	面接週間 第4回考査
	1年の反省・新年の決意	冬休	
	センター試験の概略理解	1	課題テスト(国数英)
	1年生の総仕上げ	2	第5回考査
	2年生への中継ぎ	3	第3回進路希望調査
初心の喚起・目標の確認	春休		

1学年進路ストーリーから一部を抜粋

<表2>クロスペンアカデミー講演者

2013年	開講式、春季	那須 弘平氏 (元最高裁判所判事)
	秋季	安斎 育郎氏 (立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)
2012年	開講式、春季	梶野 純子氏 (映画監督)
	秋季	矢崎 節夫氏 (金子みすゞ記念館館長、童話作家)
2011年	開講式、春季	西村 与志木氏 (NHK放送局「坂の上の雲」プロジェクトエグゼクティブプロデューサー)
	秋季	藤原 正彦氏 (お茶の水女子大学名誉教授)

肩書きは当時のもの

4月と10月に行われる「薫ヶ丘クロスペンアカデミー」は、生徒の知的好奇心を喚起することを目的とした講演会である<表2>。学校外での講演会には保護者や地域住民も参加できる。「講師には、各分野で活躍中の方を迎えています。4月は卒業生から講師を招聘しており、若い方とキャリアを重ねた方に隔年をお願いしています。今年、元最高裁判所判事的那須弘平氏に講演を依頼しました」(中澤先生)

1年次の5月後半から6月には卒業生が教育実習生として来校する機会を活用し、実習生に大学や学部・学科選びの体験談や大学での学びの様子を話してもらっている。

8月の「ようこそ教授」と11月の「こんにちは先輩」は、2006年度から始まった行事である。

「ようこそ教授」は卒業生の大学教員を理系1名、文系1名招いて、高校時代の過ごし方や学問領域、現在の研究などについて語ってもらうもので、生徒は理系志望・文系志望を問わず両分野を聴いて視野を広げる。

「こんにちは先輩」は、卒業生かつ在校生の保護者の中から10名程度に依頼し、高校時代の過ごし方、職業観や現在の仕事について話をしてもらう<表3>。こちらは、生徒は興味のある講座1つを聴講する。

講師はどちらも、卒業生の約97%を網羅しているという同窓会名簿をもとに、探している。

『ようこそ教授』は、基本的に毎年違う方に来ていただいています。講演者探しに困ったときには同窓会名簿で先生を探し、直接電話することもあります。母校に来て話をするということが大抵快く引き受けてくださいます。『こんにちは先輩』は、連続して同じ方に来ていただくこともあります」(中澤先生)

講演の内容について有賀先生は「例えば、お医者さんから、カップラーメンにお湯を入れたとたん、呼び出しがあり、結局食べたのは麺がのびきった後だったなど、具体的なエピソードとともに、医療現場は多忙で体力も

<表3>「こんにちは先輩」講師の職業例(2012年度)

職業等
<高等学校校長> 文理問わず教員志望者、教育学部志望者。 校長先生の話聞いてみたい生徒。
<地元お菓子製造メーカーの会長> 文理問わず。特に家政系学部志望者。 もの作りに興味のある生徒。
<法律事務所・弁護士> 文系。特に法学部志望者。社会科学系学部志望者。
<信州大学農学部 教員> 理系。特に農学・生物学系志望者。研究職をめざす生徒。
<銀行・人事部> 文系。特に、経済・商学部志望者。 長野を代表する企業がどんな人材を求めるか。
<市役所職員・元JICAボランティア> 文理問わず。外国語・国際関係学部志望者。
<病院・作業療法士> 理系。特に医療関係学部志望者。

必要であるといったことを話してもらっています。机上の知識ではなく、具体的で身近なエピソードを聴き、職業を理解する機会となっています」と効果を語る。

埋橋先生も「保護者が講演する場合もあり、日頃、子どもに伝えたいことを話すことができるということで熱を入れてくださいます。一方、生徒は、われわれがいつも言っていることなのに『初めてこんな話を聴いた』という感想を書いたりするんですよ」と苦笑する。

「生徒にとっては、同じことでも、教員、先輩、保護者と、いろいろな人から聴くことが良いのだと思います」(中澤先生)

なお、「ようこそ教授」「こんにちは先輩」の講演者に対しては、礼状に生徒が書いたA4用紙1枚程度の感想を添えて送っている。

総合的な学習の時間を活用した「総合ゼミ」で職場体験を導入

講演以外には、教科の内容を超えて学ぶ楽しさを知ることが目的とした、総合的な学習の時間を活用した「総合ゼミ」がある。10月、11月、12月に、半日、1日、半日の3日間にわたって行われるプログラムで、教員が得意な分野のゼミを開設し、生徒は1つを選んで受講するという内容である<表4>。ゼミは3年生の担任と理数科で課題研究を担当する教員を除き、全教員が担当する。大学のゼミに通じる内容のほか、職業について学ぶ「プロの仕事を追っかけろ」「高校教師体験」といったゼミ

＜表4＞総合学習ゼミ 講座実施内容（2012年度）

分野	小分類	テーマ	内容	受講人数
文化	文学	郷土の歌人研究	明治時代の郷土の歌人 桃沢茂春について調査する。	3
		和歌の世界 —和歌はいつでも主役である—	歌物語や日記の中で詠まれた和歌を取り出して、理解を深め、その世界の広さを学ぶ。	9
	郷土史	長谷・高遠の歴史散策	長谷・高遠に関する歴史を学び、自分の目で確かめる。	5
	人文系	アメリカを知ろう	ドラマ Glee（予定）を鑑賞し、高校生活、ヒット曲を通してアメリカを学ぶ。	20
		イギリス文化に触れよう	イギリスの文学、音楽、スポーツ等、関心ある分野から個々に好きなテーマを定めて研究発表する。	10
	教育	絵本の世界から学ぶ子どもの心理	絵本が発信するメッセージにはさまざまなものがあり、大人には計り知れない世界がある。子どもの成長と発達や親子のふれあいなどを願う愛情あふれるメッセージにはいつの日か私達が忘れかけた人間としての原点があるのではないかとこの発想から、絵本を題材にして幼児の心理や発達について、ともに考えたい。	7
		高校教師体験	各自授業を行ってみたい科目を選び教授する（将来教師という職に興味を持っている人におすすめ）。	12
	芸術	篆刻	自分だけの印を作ろう。	8
		チャイコフスキーコンクール・ショパンコンクールを探る	コンクールのDVD ドキュメンタリーを見て、コンクールの様子だけではなく、その時の社会情勢によって音楽が受ける影響などを探る。他にも秘蔵映像を鑑賞する。	8
		人文系	坐禅と精進料理 パートⅣ	禅寺の本堂で坐禅実習後、精進料理（本年度はそばとてんぷら）をみんなで作り食べます。
社会	法学	法律学に興味がある人たちへ	法学の一般的な解説。事例問題に取り組む。自分の考え方をまとめる。	6
	社会	プロの仕事を追っかけろ	興味ある職業、なりたい職業について、その道のプロにしたがって一日働いてみて、将来の進路を考える一助とする。	19
	総合	私たちの生きている社会を考える	文化・社会等の全ての領域で、日頃疑問に思っていることや関心を持っていることから一つのテーマを選び、掘り下げて考え、レポートにまとめる。問題設定やアプローチの仕方の作法も学ぶ。（テーマ例 原発・アニメ文化・経済不況 等何でも）	4
技術	理学	折り紙工作で幾何を楽しむ	・折り鶴から始めて和紙を使った伝統的な連鶴作り・ジャバラ折りとその応用 ・折り紙による多面体作り インテリアになるような美しい作品を作ります。	37
		吉田光由著「塵劫記」を読む	江戸時代の数学の教科書とされる「塵劫記」を読むことは、当時の数学の力を知るだけでなく、生活の様子的一端を知ることにもなり、興味深い。	6
		数学史に触れてみよう	数学の歴史・興味ある数学者・数学の分野などについて調べる。	10
生命	医療	赤ちゃんの誕生・成長を知ろう	6カ月の赤ちゃん検診に参加します。その他、保健師さんから妊娠、出産、乳幼児の発育についてなど、幅広くお話をさせていただきます。	16
	家政	発酵食品を学びキムチ（ベチュキムチ）を漬けよう	漬物の発酵の仕組みを学びながら、キムチを漬ける。	9
その他	健康	護身術を学ぼう（女子限定）	大切な自分の心とからだを守る女性のための護身術を学びます。また、自分を知り、健康に生きていくために、からだづくりについても勉強しましょう。女性のからだにやさしい食事などを作って食べましょう。（予定）	7
		トリムバレーを楽しもう	ニュースポーツ、トリムバレーボールで、スキルアップと戦術を考える。	12
	スポーツ	バドミントンの理論と実践	バドミントンの歴史、ラケットの握り方、ストロークの基本理論などを学習。いろいろなショットとフットワークの実践。実技テスト、ゲーム。	14
		めざせなでしこ 女子サッカー	サッカーの実践 楽しみ方。	7

一部抜粋

ミもある。

特に注目されるのは「プロの仕事を追っかけろ」である。これは進路係の教員が担当するのが慣例となっており、毎年この講座を選択した生徒に「追いかけてほしい」仕事を聞き、教員が受け入れ先の事業所を探している。

「生徒は『保育園』『マスコミ』など第3希望まで出します。教員は『マスコミ』であれば新聞がいいのかテレビがいいのかといったことを生徒と相談し、関連する領域の職場を探します。昨年は、将来漫画家になりたいといった生徒に対しては、卒業生の漫画家にお話し、漫画家の仕事や人生について話していただきました。漫画家志望だった生徒は、結果的に漫画とは関係のない学部

に進学しましたが、これをきっかけに進路について考えを深めることができました。また、医師や看護師、臨床検査技師などの医療系の職業は、近隣の上伊那生協病院などで職業体験を行います」（中澤先生）

「プロの仕事を追っかけろ」は3回で構成されている。1回目はジョブカフェなどから講師に来てもらい、職業観について講演してもらおう。2回目にそれぞれの事業所で職場体験を行う。職場体験の内容は社員へのインタビュー、ジョブシャドウイングなど事業所によって異なる。また受け入れ先の事業所には、生徒の態度やマナーなどについての評価を依頼している。3回目は生徒が体験した内容を文章にまとめて発表する。生徒は、事前学習講

話、事前確認表、実習評価表、実習記録、感想などを記入する「プロの仕事を追っかける」の冊子を持ち、自分の体験したことを書き込んでいく。例年20名程度が「プロの仕事を追っかける」を選択している。

なお、他の職業体験としては、夏休みに長野県看護協会が主催する看護体験がある。

1年次ではさらに、毎年11月23日に希望者を募って実施する「東京大学見学会」がある。1年生で実施するのは、早いうちに東京大学に行って卒業生の東大生に会い、東大進学は単なる夢ではなく、自分たちが進みうる選択肢の1つであることを体感してもらうためである。

参加者は毎年40名程度で、希望する保護者も毎年数名参加する。早朝にバスで伊那北駅を出発し、東京大学には午前10時30分ごろ到着、大学では卒業生である東大生が出迎える。グループに分かれて図書館や安田講堂などを見学したり、キャンパス内を散策したりする。学食で昼食をとったあと、午後は卒業生の東京大学教授に準備してもらった会場で「東大生と語る会」を実施する。なお、参加費として、バス代4,000円程度を参加者が負担している。

2年次は大学模擬授業を聴いて学部・学科選択 3年次は先輩の話聴いてモチベーションアップ

2年次は志望する学部・学科選択につなげるために、信州大学の教員による「信州大学模擬講義」が実施されている。生徒は1講座を受講する。

「講師は大学の高大連携の窓口を通じて依頼しますが、前年評判の良かった先生を再度お願いすることもあります。時間は2時間で、うち90分は大学と同じ講義を体験します。聴講後は感想を提出します」(中澤先生)

3年次は志望大学をめざして学力をつける時期となるが、夏休みに(今年は夏休み明けの予定)卒業生である大学1年生に来てもらい、生徒は自分が志望する学部の卒業生と懇談する。昨年は11名の卒業生が来校した。

「来校するのは昨年の3年生ですので、生徒は気兼ねなく話を聴くことができます。部活動での3年生の姿は知っていますが、部活動を引退して受験勉強に本格的に取り組む姿は知りませんので、部活動を引退した後、どのように勉強していたのかを聴かせたいと考えたのです。また、勉強法だけでなく、大学の様子を聴くことは、合格へのモチベーションアップにもつながります」

(有賀先生)

来校する卒業生の確保が難しそうだが、3年生のときに候補となる生徒について既に見当をつけるそうだ。同校は文化祭(ペン祭)にも力を入れており、高校卒業後の6月の文化祭には多くの大学生も遊びにくるという。そこで、文化祭に来た大学生に日程を伝えて内諾を得ている。来年は自分と呼んでほしいという生徒が多いことから、有意義な催しであることがわかる。

いろいろな講演会、体験活動があるが、生徒が聴きっぱなし、体験しっぱなしにならないよう、必ずA4用紙1枚程度の感想を書かせるようにしている。また、大学1年生から大先輩まで、多くの卒業生の協力を得ているのが特徴である。

同窓会の状況によってはすぐに同様の取り組みをすることは難しいが、今後、卒業生の協力を得る体制を整えていくことがキャリア教育の1つの鍵となりそうだ。

「身近な存在である卒業生と多く接することは、生徒にとって非常に有意義です。本校のような地方にある高校でも、先輩たちは世界的な仕事や最先端の仕事をしているということを伝えることで、生徒には自信をもちながら進路を選択し、世界で活躍したり、その力をもって伊那谷を活性化したりする人材となしてほしいと考えています」(中澤先生)

長野県伊那北高等学校

◇所在地：長野県伊那市山寺 2165 番地

◇沿革：1920年 長野県伊那中学校開校
1948年 長野県伊那北高等学校開校
1993年 理数科開設

◇学級編成：[全日制]
普通科 1・2学年5クラス、3学年6クラス
理数科 各学年1クラス

◇生徒数：766名(男子377名、女子389名) 2013年5月現在

◇特色：2つのペンを交差させた校章は平和を希求する「ペンは剣より強し」の理想につながり、校歌にある「天真(まこと)」は真理を探究し正義を求め、幅広い人格形成をめざすものである。生徒はこの2つの理念の下で闊達な高校生活を送っている。部活動や生徒会活動、行事も盛んで、特に文化祭の「ペン祭」は生徒が一丸となって取り組む。

◇卒業生の進路：2013年3月卒業生 274名
・合格者の内訳(現役生、延数)：国立大学(大学校舎)112名、私立大学 251名、短期大学・専門学校(海外含む)16名